

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500146		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1393番地16		
自己評価作成日	令和5年9月11日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5年 10月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 公民館活動に参加する等、地域交流に力を入れている。(黒川公民館を通して地元の野菜や果物を頂くことも多い)</p> <p>* コロナ感染予防に力を入れている。(これまで入居者様がコロナ感染していない)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは窓辺より季節が感じられる自然豊かな環境にある。ホームの前にはバス停があり、小学生や諸外国の方が利用され、挨拶や道案内などホームに尋ねに来られることもある。中庭には手入れされた、季節の植物や置物が設置されており、バーベキューなども行われている。また、職員と入居者のケアの取り組みに対して、入居者や入居者家族・職員の意見の反映がされて工夫している。職員同士や入居者の個々の個人を尊重し、お互いに支えあい、穏やかで安全・安心した生活を過ごせるホームである。職員が積極的に外部・内部研修会に参加されるなどケアの向上に生かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	A棟	B棟		A棟	B棟
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員が常に目に着くところに掲げ、確認し合うとともに、実践できるよう話し合っている。理念についての全体研修会を行った。	理念を職員が常に目に着くところに掲げ、確認し合うとともに、実践できるよう話し合っている。理念についての全体研修会を行った。	年に2~3回、理念について、全体研修の中で行い、日々の業務につなげられるよう意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館活動で作られた野菜や果物を持参して下さっている。今後はコロナの流行状況を見ながら、たんぼぼ保育園など交流を図りたい。	小学校の運動会を見学した。また公民館活動で作られた野菜や果物を持参して下さっている。今後はコロナの流行状況を見ながら、たんぼぼ保育園など交流を図りたい。	公民館活動での野菜や果物をいただくので、ホームのおやつや食事として活用している。ホームの前のバス停を利用している近隣の小学生と窓越しに手を振ったり、運動会の招待を受けたりと交流が続いている。今後は近隣の保育園児との交流を図る準備をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折、ご家族や地域の方の参加者に対し、現場の取り組みなどを報告している。	運営推進会議の折、ご家族や地域の方の参加者に対し、現場の取り組みなどを報告している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月、7月黒川公民館で開催した。9月、11月、1月、3月を予定している。参加者の皆さんから積極的なご意見やご助言を頂きサービス向上に努めている。	5月、7月黒川公民館で開催した。9月、11月、1月、3月を予定している。参加者の皆さんから積極的なご意見やご助言を頂きサービス向上に努めている。	奇数月に近隣の公民館で開催されている。会議の中では、ホーム内で実施した研修や取り組みを報告をし、参加者からも活発な意見や助言を受けることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターからの入居相談を通して、事業所の実情やケアへの取り組み等情報交換を行い協力関係を図っている。	地域包括支援センターからの入居相談を通して、事業所の実情やケアへの取り組み等情報交換を行い協力関係を図っている。	地域包括支援センターからの入居受け入れなどの相談もあり、情報交換など協力関係を築くよう取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束委員会で協議を重ね、年に2回施設全体の研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、該当者はいない。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会で協議を重ね、年に2回施設全体の研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在、9/1から1名車椅子使用中、危険な時に安全ベルトを使用している。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会が設置されている。身体拘束のないケアに取り組まれているが、現在、車椅子上での安全ベルトを、一時的に使用している方がおられる。	今後も、身体拘束に頼らないケアを検討し、取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価(A棟)		自己評価(B棟)		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
							次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や事業所内研修を通して、言葉遣いなど配慮しながら、虐待防止に努めている。		外部研修や事業所内研修を通して、言葉遣いなど配慮しながら、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要な方があれば活用できるよう、勉強会をしている。		成年後見制度を必要な方があれば活用できるよう、勉強会をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、また電話・LINEでも意見を伺っている。また、玄関にご意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。		運営推進会議や面会折、また電話・LINEにて意見を伺っている。また、玄関にご意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。		運営推進会議や面会・SNSにて意見や要望を聞き、職員へは都度伝えたり、朝夕の申し送りのときなど適宜共有を行っている。運営推進会議で職員研修で学んだことを知りたいとの声があったため、推進会議でも職員研修についても報告するようにしている。運営推進会議や面会・SNSにて意見や要望を聞いて、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で出された意見は、会議や朝のミーティングで話し合い、ホーム長が会議等で代表者と意見交換を行っている。		職員間で出された意見は、会議や朝のミーティングで話し合い、ホーム長が会議等で代表者と意見交換を行っている。		ホーム長が職員の意見や要望を聞き、代表者と意見交換を行い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。職員への福利厚生に努めている。		職員個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。職員への福利厚生に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。		職員個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。			

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の折、最新の情報を得ながら取り組んでいった。	研修会の折、最新の情報を得ながら取り組んでいった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている。	サービスを導入する前にご本人と面談を行い、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に御家族との話し合いを持ち、希望される事に耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている。	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には、家事等の役割を担ってもらい、協力し助け合って暮らしていけるよう配慮している。	出来る方には、家事などの役割を担ってもらい、共に助け合い、協力して暮らしていける関係作りに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていけるよう健康状態を含めた近況報告を電話やメールを使い密に行っている。	家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。情報交換を密に行えるよう電話やテレビ電話、ラインなどを活用している。面会は居室や面会室を利用できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブや散歩、お花見などの対応を行った。コロナの影響もあり人との関係はご家族の面会に留まっている。	コロナが5類とされたが、施設としては大勢の方が集まる場所への参加は控えている。他施設に入居されている息子さんに会いに行かれたり、実家に帰り墓参りされた方がいる。	コロナ禍にて、家族との面会は窓越しから、玄関内、居室面会など徐々に緩和されている。	

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で入居者さん同士、入居者と職員の交流を深めたり、レクリエーションを通じての交流が図れるよう努めている。また他の棟への訪問や来訪支援により関係づくりに輪を広げている。	毎日のレクリエーションや家事作業を通して、お互いに気遣い合い交流されている様子が見受けられる。また他の棟への訪問や来訪支援により関係づくりに輪を広げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には、ご家族へは経過報告や洗濯の代行を行っている。また、必要に応じて相談や支援に努めている。	入院された方の洗濯の代行を行ったり、入院時の状況の情報を得て、ご家族との連絡は密に行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人が希望される暮らしができるよう、お一人おひとりの思いを把握できるよう努めている。	本人の強い要望により今年の8月まで主治医を協力医に変更せず、受診対応してきた。散歩を希望される方に出来るだけ毎日同行して対応した。	想いや希望を伝えることができる方は、意向に添えるように努めている。困難な場合は、日ごろの様子から職員が話し合っ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後もご家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思いで話をしたりして情報収集に努めている。	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの心身状態を把握し、無理のない生活ができるようバイタルチェックや表情に気を配っている。	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方(午睡・下肢挙上など)工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らして頂けるようにチームで話し合っている。また、ご本人のニーズに応じてできる限りの対応が出来るよう、ご家族の意見も伺っている。	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らして頂けるようにスタッフで話し合っている。また、ご本人や、ご家族の意見も伺っている。	3ヶ月に一度のモニタリングが行われており、本人・家族・職員の意向を反映した計画作成が作られている。日々の介護記録を記入する時は、介護計画がいつでも確認できるように、様式の工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を行い、情報を共有すると共に状態の変化に即した介護計画を作成している。	随時、介護記録を行い情報を共有しながら、介護計画の見直しや実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	腕時計の電池交換の希望に地域のホームセンターに電池を買いに行き対応を行った。また、四季を通じてご自分の田畑を見たい方の対応を行った。	本人の希望により、補聴器作成のため補聴器店に同行した。専門医(精神科・眼科・歯科など)への受診対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店での買い物。栗拾いの見学に招かれている。	地域公民館の図書館の利用。小学校の運動会見物。地域のお店での買い物を予定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、協力医療機関以外にも希望される医療機関を受診できるように支援している。	本人や家族の希望を大切に、協力医療機関以外にも希望される医療機関を受診できるように支援している。	協力医と協力歯科医に定期的な往診があり、必要時には専門医などの受診も家族の希望があれば、家族で受診ができるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等の変化があれば素早く看護職に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。	状態等の変化があれば素早く看護職に伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供票等を活用して情報交換を行っている。入院中も面会や洗濯物代行の折、病院関係者と情報交換を行っている。	入院時、情報提供票等を活用して情報交換を行っている。入院中も面会や洗濯物代行の折、病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末に向けた方針を伝え、家族の意向を確認している。その後、定期的又は状態変化時に話し合っている。社内で看取り研修を行った。	入居時に、重度化や終末に向けた方針を伝え、家族の意向を確認している。その後、定期的又は状態変化時に話し合っている。社内で看取り研修を行った。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を伝え、家族に説明を行い、同意書をとっている。主治医と家族、職員で面談を行い、ホームでの看取りもできるように取り組んでいる。看取り対応後は、職員間で振り返りを行う場も設けたり、運営推進会議で報告することで共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6/14消防署職員による救急救命講習会を開催しAEDの使い方や人工呼吸について学習した。	6/14消防署職員による救急救命講習会を開催しAEDの使い方や人工呼吸について学習した。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時用の備蓄をしている。年2回の避難訓練を計画し、消防署の指導も受けている。サンルームからスロープを使っての避難訓練を5月に実施した。	非常時用の備蓄をしている。年2回の避難訓練を計画し、消防署の指導も受けている。サンルームからスロープを使っての避難訓練を5月に実施した。	火災避難訓練は、全員参加で年2回行われている。訓練実施後、サンルームよりスロープにて避難できるように避難口を増やしている。誤報時の対応確認もできている。近隣住民にも避難訓練の見学から参加していただけないかチラシを作成し、配布をするなど取り組みを続けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の状態や状況を理解し、敬意、人格を尊重した言葉かけや、対応を心がけている。	目の見えない方、耳の間こえ難い方などその方の身体状況をふまえ、声かけや接し方に優しさをもって行うよう努めている。	個人情報のファイルは戸棚に名前が見えないように配慮している。トイレや入浴など、一人ひとりに配慮したケア対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりへの声かけを通し、個々人が持つ思いや、希望が拾えるよう心掛けている。ご利用者が主体となれるよう心掛けている。	常に声かけするように心掛け、本人の意向を確認できるよう努めている。ご利用者が主体となれるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、お一人おひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴や午睡が提供できるよう支援している。	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、一人ひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴や午睡など提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットや髪染め希望のある方には、その都度対応している。髭剃りを嫌がられる方には、工夫を凝らして身だしなみの支援をしている。	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。また、理容師によるヘアカットやカラーを受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方と一緒に、会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に合わせ、テーブル拭きや片づけを行っている。	入居者の方も各人の力に合わせ、テーブルを拭いたり、片付けしたり積極的に行っている。	入居者ができることを見つけ、下膳や後片付けなど職員と一緒に行われている。行事食やお菓子作りなど食事を楽しむことができるよう入居者の意見を食事に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、身体状態に応じた食事形態で提供している。栄養改善のための栄養ドリンク、サプリを飲用して頂いている、好き嫌いの激しい方には、代替えを提供している。希望により納豆を提供している。	各人の食事の適量を把握し、身体状態に応じた食事形態で提供している。また、栄養改善のための高カロリー食、サプリを摂取して頂いている。納豆なども提供している。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人に力に応じた口腔ケアをおこない、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールでうがいをして頂いている。毎日ポリデント使用。	毎食後、各人に力に応じた口腔ケアをおこない、必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールでうがいをして頂いている。毎日ポリデント使用。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみながらトイレ案内を行い、自立できるよう支援している。また、必要以上のオムツを使用しないよう工夫を心掛けている。	排泄パターンをつかみながらトイレ案内を行ない、自立できるよう支援している	定時に声掛け・誘導を行い、排泄チェック表で確認しながら誘導している。オムツ使用の方が布パンツまで向かうよう、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れている。また、運動を行い便秘予防に努めている。	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖、寒天茶等を提供したり、ご飯に寒天を入れて便秘予防に取り組んでいる。また、必要に応じて便秘薬を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や気分に配慮し、個々に沿った入浴やシャワー浴ができるよう支援している。	本人の希望や状況に合わせて、入浴・シャワー浴・足浴などを行い清潔保持に努めている。	週に2~3回の入浴ができている。本人の状態に合わせ、いつでも入浴ができるようにしている。本人の体調に合わせ、清拭・足浴・シャワー浴も個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促している。エアコンで温度調節を図っている。	体調を見ながら下肢挙上したりクッションを活用して午睡を促している。エアコンで温度調節を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に確認したり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している。	処方箋を基に確認したり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片付けや洗濯物たたみ等に役割を持つことで、やりがいを持って取り組まれている。会話や歌・おやつ作り、作品作り等を楽しみれ気分転換をされている。	食器の片付けや洗濯物たたみ等に役割を持つことで、やりがいを持って取り組まれている。会話や歌・おやつ作り、作品作り等を楽しみれ気分転換をされている。		

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類とされたが、施設対応としては密にならない場所への買い物、外出を行っている。	コロナが5類とされたが、施設対応としては密にならない場所への買い物、施設利用を予定している。9/11自宅への外出(墓参り)	日常的に散歩やドライブなど入居者の希望時対応している。花見など季節の行事では、併設のグループホームと車を共有して、外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の状態や希望に応じて買い物ができるよう支援しているが、原則お金の自己管理は行っていない。	原則、お金は自己管理は行っていない。 お金を管理できる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の了承を得ながら、電話を希望される時には直ぐに対応している。テレビ電話の活用も行った。	希望があるときは電話やテレビ電話をかけて頂いている。電話の取次や手紙のやり取り等、必要な時に応じて仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度や湿度に配慮したり、換気にも心掛け、空気清浄機や除菌器を使用している。飾り付けも季節感を感じられるよう心掛けている。	随時、室温と湿度の管理を行い、季節の花や飾り絵、置物で季節感を取り入れるよう工夫している。換気にも心掛け、空気清浄機や除菌器を使用している。	空気清浄機設置を各所に設置され、温度・湿度計で確認して、エアコンを調整するなど、快適な室内環境作りに努められている。また、絵画がかけられており定期的に変更されている。入居者が人間関係が円滑になるような席への配慮もなされており、共有空間は穏やかなで居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き、思い思いの場所ですごしていただけるよう配慮している。	サンルームにソファやベット、椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう配慮している。居室にソファを置いて入居者同士が交流できる場作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由で、本人の居心地のよい居室づくりに努めている。	持ち込みは自由で、本人の居心地のよい居室づくりに努めている。	居室内での持ち込み禁止はない。本人・職員が安全に配慮した工夫があり、また、本人が使いやすいように家具等がおかれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している。	トイレに表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している。		